



武智 邦典 議員

県管理河川の土砂堆積による地域住民の健康被害及び環境保全対策を問う

問

上野団地東長尾谷川の堆積土砂と生活排水との因果関係でボウフラの絶好の生息地になり蚊が大発生している。

伊予小・中学校横、大谷川の自然環境認識を生徒達に促すよう草・木の伐採を実施しているが土砂の除去も必要である。県河川に堆積した土砂対応策を問う。

答

中村市長

本市の県管理河川は、一級河川21、二級河川42の合計63河川であるが、県の財政状況も厳しいため、河川管理は、

流水に支障を来している箇所機能維持や取水断面を阻害している障害物の除去等最小限の管理であり、蚊の発生原因と考えられる除草及び河床掘削等の予算確保が難しいのが現状と思われる。

県では、住民が身近な河川をボランティアで清掃する「愛リバー・サポーター制度」を創設し、地域と行政が協力して河川環境の美化に努めるとともに、河川愛護の意識向上を図り、行政の負担で手の届かない河川管理を地域住民の方々にお願いしている。

答

産業建設部長

両河川については県に対し現状を説明し、強く要望してきた。まず、長尾谷川は、愛リバーへの登録を条件に河床掘削を行うための予算確保の確約を取りつけた。また、蚊の駆除については、市民生活課が薬剤の支給で対応している。次に、大谷川は、本年度施行予定の河川改修工事の中で検討したいとのことであったが、今後の管理は、愛リバ

への登録を推進してほしいとのことで、地元区長等に協力依頼をしていきたい。

答

教育委員会 事務局長

地域と学校関係者、社会教育関係団体が連絡を取り合いながら、河川美化運動に協力されたことに対して敬意を表したい。こうした事業が今、真に求められている姿ではないかと確信している。



草木の伐採作業

伊予市における乳がん検診の在り方について、見解を問う

問

米国でスタートした運動「ピンクリボン」は、乳がんの早

期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるシンボルマークである。

国の指針より先駆けてピンクリボン運動の推進市として乳がん検診の対象年齢を30歳以上の方まで適用実施することは可能ではないか。

答

中村市長

乳がんの発症ピークは40歳代で、30歳代までは乳腺が発達段階で、現在集団検診で実施しているマンモグラフィーでは、しこりとともに乳腺も白く写り、がんが発見されにくい。また妊娠、授乳期において多少なりとも被爆の影響を受ける可能性があることなどから、総合的に勘案すれば、国の指針に沿った現行の40歳以上の対象年齢の緩和は極めて難しいと考える。

しかしながら、本市も設立当初から加入している「ピンクリボンえひめ」が進めるピンクリボン運動や毎年10月の乳がん月間の取組に積極的に参加し、30歳代女性の早期受診勧奨を進めていきたいと考えている。

また、受診対象年齢以下の方に對して被爆の心配のない

答

市民福祉部長

超音波診断、いわゆるエコー設備を有する検診機関、専門医療機関への紹介など、個人の実情に合ったよりきめ細かい対応を進め、早期発見・早期治療が図れるよう、これらを記したリーフレットを作成するなど、広報資料の充実を図り、実効のある体制づくりを進めていく所存である。

答

乳がん検診の受診者は、平成18、19、20年度それぞれ、1272人、1260人、1041人で、18、19年度は視触診とマンモグラフィー受診者の延べ数、20年度はマンモグラフィーのみとなっている。

さらに、乳がん検診の過去3カ年平均の受診者は14.4%と全国平均の20%に比べて低くなっているため、引き続き受診勧奨に取り組んでいく。また、乳がん検診費用は2000円となっている。

本件は女性にとつて極めて重要な問題であり、今後とも現状把握に努め、重要検討課題として位置付け、女性検診の総合対策に積極的に取り組んでいく。